

小平西のきずな

「小平西地区地域ネットワーク」ニュース No. 42

2022年6月7日(火)発行

発行責任者:草野篤子(白梅学園大学)

TEL: 042-346-5639

住所:〒187-8570

東京都小平市小川町1-830

白梅学園生協

～皆様のご利用をお待ちしています!!～

白梅学園生協 理事長 西方規恵

白梅学園生活協同組合(白梅生協)は、白梅学園で学ぶすべての学生(中・高校生から短大・大学・大学院生、幼稚園の皆様にもご利用いただいています。)と教職員の出資によって運営される、協同組合です。40年ほど前に設立されたそうです。カフェテリア食堂での食事の提供や、書籍・文具・日用品・お菓子などを販売する購買部などを運営しています。場所は、大学の1棟の1階に店舗(購買部)、3階に食堂があります。決して広くはありませんが、学生さん、教職員の皆様の学生生活を支援しています。

生協は、営利を目的としない組合員の自主的な団体(非営利団体)で、組合員一人ひとりの声が反映する仕

組みで運営されています。生協に対する希望やリクエストなどは、商品の品揃えや商品開発につながっています。共済など学生同士の「たすけあい」事業にも加わっています。(全国の大学生協の「学生総合共済」です。)

ところが、2020年からの新型コロナウイルスによる通学の制限の影響は大きなものとなりました。生協は、大学と協力して教科書を郵送するなど取り組み、学習のサポートを行いました。しかし、毎日学生が登校して利用していただけるような状況ではなく、赤字経営となってしまいました。今まで安定して運営できるようにと少しずつ貯めてきたもので、何とかやりくりしてきていますが大ピンチです!!多くの皆様のご利用をお待ちしています。

「組合員ではないから利用は…」と思われる方もおられると思いますが、白梅生協は、組合員だけでなく、どなたもご利用いただけます。お昼ごはん時であれば食堂が、また日中であれば購買部が、皆様をお待ちしています。

小平西地区ネットワークって何?

2012年3月17日に白梅学園大学関係者が様々なNPO、ボランティア団体、民生・児童委員、町内会、大学・学校などに関係する方々に呼びかけて「お互いの顔が見える人間関係が豊かな地域づくり」を目指して立ち上げました。個人ベース(団体の担当者でも可)の加入を基本とする開かれたネットワークです。市民の皆さん一緒に活動に参加なさいませんか?

地域のつながいを求めて 10 年

小平西地区地域ネットワーク 10 周年懇談会報告

3月5日(土)15時より「小平西地区地域ネットワーク 10周年記念懇談会」(以下「懇談会」)が開催されました。懇談会には小林市長や古川教育長も参加されて挨拶していただきました。あいさつの中では特に地域づくりという点で大きな力になったという評価をいただきました。

草野代表のあいさつに続いて白梅学園大学・白梅学園短期大学高田文子学長より、小平西地区地域ネットワーク(以下西ネット)が、この10年間地道に努力を重ねて大学と地域のつながりをきずいてきたことは、学園全体にとっても大きな意味があると語られました。井原理事長からも挨拶があり、大学が地域と積極的に結びついていくことはどうしてもやらなければならない課題であり、西ネットがその先頭に立っていることは学園の誇りでもあると言葉をいただきました。

挨拶に続いて10年間の歩みについて西ネット担当教

事や様子が報告されています。地域の世話人と大学の世話人一緒になって地域のつながりを考えていく地域世話人会は年に5回開催され、懇談会の準備とともに地域情報の交換などを行っています。また学内の準備をすすめる大学世話人会はほぼ毎月開催され、この3月で100回を超えています。報告に続いて地域の世話人や参加者よりこの10年をふりかえっての感想と今後の在り方についての提言なども出されています。

後半では「西のきずな」1号から41号の中から特徴的な記事などが西ネット担当教員の西方より報告されました。小平西地区という限られた範囲を基本にしながらかつて様々な情報を集めてきたので、どの記事もユニークなものになっています。白梅も大学だけでなく、高校、中学、幼稚園からも記事が報告され、西ネットが地域に根付いている様子が報告されました。

同じく西ネット担当教員の森山より、これからの10年を視野に入れた展望と課題について報告されました。「さつき」に始まったコミュニティサロンはコロナ禍等を機に中止していますが、この再展開についてが問われています。また「西の風」やうちカフェ・えん、あるいは中学生勉強会「分かった会」などの居場所づくりも課題です。最近報道されるようになった子どもたちが介護や生活を支える「ヤングケアラー」問題も地域として取り組んでいく課題の一つです。2010年頃に子どもの貧困率が話題になりましたが、そのころはじまった子ども食堂が全国に広がり、現在は全国で6000か所を越えるという調査結果が報告されました(ちなみに小平市は4月末現在11の子ども食堂と2つのだれでも食堂というとりくみを合わせると13か所になっています)。さらに施設に生活する人々が地域の中に入って交流する「逆デイサービス」についても言及され、新たな課題として提示されました。

最後に地域世話人の金田さんより、この10年の歩みを踏まえてさらに地域の結びつきを強めていくことが必要であるとまとめられ閉会となりました。対面とオンラインを合わせて60名ほどが参加しています。

小平西地区地域ネットワーク 10周年記念懇談会



「お互いの顔が見える地域づくり」のために「大学ができることはなにか？」地域の人たちと共に探ってきました。10周年を記念して下記の懇談会を開催いたします。(参加費無料)
地域のみならず、学生、教職員のみならずの積極的な参加をお待ちしています。

日時: 2022年3月5日(土)15時~17時
場所: 白梅学園大学I棟及びオンライン(ZOOM)
申込みは右のQRコード又は下記のメールまで

白梅学園大学 小平西地区地域ネットワーク
森山千賀子 moriyama@shiraume.ac.jp



員の瀧口より資料に基づいて報告が行われました。年4回の地域懇談会ごとに発行している地域広報紙「小平西のきずな」はこの3月で41号となり、地域の様々な行

小さな点から大きな広がりに

星槎大学 佐々木 剛

小平西地区地域ネットワーク 10 周年にお祝いを申し上げます。

懇談会での発表から、このネットワークが広がる意味と人々のつながりを考え直してみました。私は小平市の近隣に住んでいます。小さな事から“きよか”で、地域の方々と接する機会があり、また、この地域の中学校の生徒さんたちに関与する分野の話をする機会を得ました。そのことが、私にとって、小さいけれど広がりの始まりだったと思います。

手元に「10 周年記念誌」があります。あゆみを読んでいくと、かなりの数の人と人の出会いや、その時どきのテーマに沿った出来事が記載されています。これらネットワークを、80 年前に小松謙助氏(白梅学園の前身となる“東京家庭学校”の創始者)は思い描いていたのでしょうか。いまから 80 年前、多摩地区全体はのどかな田園地帯でした。当時、この多摩地区は、戦争に突入する直前の時代であったため、周辺には軍関連の施設が隣接していました。また、田園であることから、転地療養を

目的とした病院施設が数多くある場所でもあったようです。

以前、私が務めていた特別支援学校は、都心の学校の分校として建てられました。西地区に整育園がありますが、この施設も、以前は、小川駅近くにありました。この病院は、その昔、東京都の施設で、この病院の医師達が、長期に入院する子どもに教育を受けさせたいとして塾的なものをつくった経緯はあまり知られていません。一方、小松謙助氏は、穂積重遠氏(近年、渋谷栄一との関連からテレビ等で取り上げられた東京帝国大学の法学教授)らと一緒に社会教育の啓発として家庭教育の振興を図ったと言います。くしくも、小平で、病院内の学校が医療と教育を結びつけ、家庭教育が白梅学園を萌芽させたと言えます。

この歴史の延長上に、地域が社会に広がり発信した“小さな点”が、新たなネットワークとして広がりはじめました。この歴史の瞬間に私たちが立ち合っていることに発表会で気づき、驚きを覚えました。

多文化共生を目指して

一般社団法人小平市国際交流協会スタート

瀧口 優(副理事長)

小平市は東京でも外国籍の住人が多く、2022 年 1 月 1 日現在で 4800 人を越えています。東京都では 50 万人、そして日本全体では 280 万人となっています。小平市国際交流協会(Kodaira International Friendship Association = KIFA)は 1990 年 12 月に小平市の支援を受けて任意団体としてスタートし、2020(令和 2)年で 30 周年が経過しています。1980 年代にブラジルやペルー、あるいはフィリピンなどから多くの「労働者」を受け入れ、

その対応として国の働きかけによって全国に国際交流協会が作られたことと時期が重なっています。

この 30 年の間に、日本の国際化がすすみ、外国籍住民との「国際交流」だけでなく、地域に生活する同じ住民として様々な文化を持った人々が共に生きる社会として「多文化共生社会」づくりが進んできています。今回の一般社団法人化は KIFA が多文化共生社会づくりの中心となって努力することを決意したものです。もちろん

KIFA だけがやるのではなく、生活全体を考えると行政である小平市が果たす役割が大きく、市として多文化共生社会をどのようにすすめていくのかのビジョン(方針)が求められています。KIFAは3月に小平市長に対して「多文化共生への提言」を手渡しています。

また多文化共生社会は小平市民一人一人が「共生」しなければ実現しません。西ネットが目指してきた「顔と顔の見えるつながり」こそ共生の原点になります。KIFAには現在以下のように12の事業グループがあります。

①国際理解講座、②日本語会話教室(月・金・土)、③子ども日本語・学習支援、④保育、⑤交流サロン、⑦世界の料理紹介、⑧機関誌の編集・発行、⑨生活情報提供、⑩翻訳・通訳、⑫災害時対応

小平市の多文化共生を考える上で外せないのは、学園西町にある国際交流センターと小川1丁目にある朝鮮大学校です。国際交流センターには留学生を中心として様々な国籍の人々が毎年入れ替わりながら地域にかかわっています。朝鮮大学校も全国から在日外国人として在籍し、2年もしくは4年学んでいます。日本で生まれ育ちながら日本の奨学金などの制度から外されています。コロナ禍の補助金も支給の対象となっていない。こうした問題も放置されてはなりません。

西ネットは小平市の西に位置し、その中で外国籍住民とのコミュニティづくりも視野に入れて取り組む必要が出てくることは間違いありません。一緒に考えていきましょう。

鷹の台公園

—子どもを真ん中にして—

NPO 法人こだいら自由遊びの会 副理事長

ボブ(福本志濃夫)

鷹の台公園は昭和38年に将来の公園整備が決められ令和元年度に小平市土地開発公社が公園予定地(創価高校グラウンド跡地)の用地を取得しました。現在、市では、新市長のもと整備に向け、調査・検討を進めています。今後、計画地でのプレイイベントや整備に向けたワークショップなども行われるようです。

一方で今の公園整備の手法としてPFIなどの民間に公園の整備の一部と運営を委ねて予算を削減する手法を取り入れる提案も出ています。この手法は民間のアイデアとセンスを公園経営に取り入れることができ、オシャレなカフェなどデザインクオリティの高い公園が整備できるメリットがありますが、商業的利用スペースに偏りすぎて、本来公園が持っている誰でも気軽に利用できる公共空間としての機能が不十分になる傾向もあるため注意が必要と思っています。

私達NPO 法人こだいら自由遊びの会としては、鷹の

台公園は地元の商店と手のひらサイズの賑わいと多世代が繋がりが、地域の子どもたちや子育て世代の親たちを助けていける場として作り上げて行けるような場を地域の色々な立場の皆さんと共に創っていいかと考えています。そのために私たち市民がコミットできる仕組みを行政と一緒に作っていく必要があります。

地域の繋がりが希薄になり生きにくい時代です。鷹の台公園が多様な人が子どもを真ん中において繋がるきっかけとなる事を切に願います。皆さん是非、鷹の台公園の計画に注目していただき、一緒に参加してください。私も参加している「鷹の台ひとえん会」という市民団体でも公園のことを色々な角度で検討し提言していこうとしています。こちらへの参加されるのも良いと思います。鷹の台公園が地域みんなの場所としてにぎやかで温かい場となることを願っています。

一緒に考えていきましょう。

白梅あそぼうかい&世代間交流広場報告

遊びつくそうこどもの日

～ようこそ！レトロ商店街へ～

川野晴紀(子ども学科)

2022年5月7日、私たちは今年度初めてのあそぼうかい&世代間交流広場を開催しました。今回は「子どもの日」や「レトロ」、「昔遊び」などのワードをもとに『遊びつくそうこどもの日～ようこそ！レトロ商店街へ～』というテーマを掲げました。たくさんの一年生を迎え、新体制でのあそぼうかいは不安もありました。しかし、参加者の方々に楽しんでもらいたいという気持ちを一心に力を合わせ、準備を進めていきました。そして迎えた当日はたくさんの方々にお越しいただき、親子で楽しんでいただくことができました。

あそぼうかいでは、5つのコーナーに分かれて参加者の方々をお迎えしています。5月あそぼう回で各コーナーがどのような活動をしていたのかを紹介させていただきます。



あそぼうかいで最初に参加者の方々と学生が接する「受付コーナー」では、レトロ商店街をモチーフにした看板や顔はめパネルを設置し、テーマに沿った世界観に入り込めるように工夫しました。また、様々な顔をした鯉のぼりの名札も一緒につくりました。

学生と一緒に様々なあそびを体験できる「あそびコーナー」では、昔なつかしい遊びに親しみを持ってもらいたいという思いを込めて、コリントゲームや鯉のぼりのパズルと一緒に楽しめるようにしました。

「制作コーナー」では、紙コップを使った世界で一つだけのけん玉を学生と一緒に作りました。自分で作ったけん玉を使って、その場で遊ぶこともできるようにしました。

落ち着いた空間となっている「ホットスペース」では、学生の手作りおもちゃ(めんこ、だるま落とし、コマ)で遊んだりしながら、自由に安心してすごせるように工夫しました。



あそぼうかいの締めくくりとなる「おわりのつどい」では、「げんこつ山のためきさん」「いろはにこんぺいとう」をモチーフとした劇を行い、昔遊びに触れる機会を持ってもらえるようにしました。



これら5つのコーナーを参加者の方々に楽しんでいただいたのと同時に、学生にとって非常に良い学びの場

ともなりました。今回の経験を活かし、次のあそぼうかいも多くの方が笑顔になれるような企画にしていきたいと

思います。

困りごとには相談してください

こだいら生活相談支援センター

コミュニティソーシャルワーカー(CSW)

磯谷萌南

私たちが所属しているこだいら生活相談支援センターは、様々な事情によりお困りごとを抱えた市民の方を対象とした相談窓口です。活用できる制度や事業のご案内、関係機関へのご紹介等を行っています。小平市から社会福祉協議会が事業を受託し運営しておりますので、相談は無料、秘密は守られますので安心してご相談ください。

また、2021年度から、コミュニティソーシャルワーカー(以下、CSW)が小平市全域配置になり、私は地域包括支援センターけやきの郷の地域、中島町や、上水新町、たかの台等西側の地域を担当しております。

CSWとは、生活のこと、仕事や病気のこと、経済的なこと等あらゆる悩みや相談に対し、課題を整理しながら、一緒に考え、現状を改善する方法や手段を相談者と共

に見つけ、各種制度や関係機関、地域の社会資源や活動を活用しながら、相談者の自立を応援する相談員です。

ひきこもりのご相談や、ご家族関係のご相談等、一人ひとりが抱えるお悩みに対し、どのような関わりができるのか考えながらCSWの活動を行っています。それは地域の居場所に一緒に行くことで社会との繋がりを持つきっかけづくりだったり、子ども食堂があることをお伝えして地域との繋がりや親子の大切な時間を増やすことだったり支援の内容は様々です。それらの支援を行う中で、日々地域に出向きながら地域活動と接点を持ち地域をよく知ることがとても大切であると実感しています。地域の皆様と関わらせていただきながら、繋がりを深めていければと思いますので、よろしくお願いいたします。

トラブルをチャンスに

瀧口優(元白梅学園短期大学教員)

とつぜん天井から水が落ちてきました。なぜだろうと考える前に、階段から2階にかけあがって上の部屋に行ってみました。洗濯機を操作しているうちにホースが抜けてしまい、水道の栓が止まらなくなったとかで、家中に水を処理するための布がいっぱいになっていました。申し訳なさそうに謝る夫婦に対して、なぜか親しみを感じました。どの程度水があふれたのかを確かめたところで自宅にもどり、バケツを置いてあとは水が落ち切るの

を待つとして時間を過ごしました。

少ししてあらためてご挨拶に伺い、「これを機会にお茶でも飲みませんか、せっかく顔を合わせる事ができたのですから」と伝えた。翌日花束とお菓子が届きました。4年前に亡くなった妻のことを覚えていて、ずっと気になっていたとのこと。ちょうど4月11日が妻が亡くなって4年目ということもあり、祭壇に飾ることができました。3月31日で白梅学園短期大学の教員を定年退職し、こ

これから新たな生活が始まる矢先の出来事で、私にとってはトラブルならぬ新しい出会いとなりました。すぐそばにいながらなかなかつながりを持ってないことが気になっていましたが、このような形でつながるのも「あり」と実感しました。

コロナ禍でつながりが切れてしまうことの多い昨今です



が、トラブルも考えようによっては新たな出会いの機会になるということを体験しました。

教員生活は48年になり、多くの生徒や学生に出会い、そして多くの先生方や職員とかかわってきました。時には大変だと思ふ人間関係もありましたが、人間である以上どこかにつながる場所があるのではないかという思いで今日をむかえています。いくつかの失敗もありますが、自分があきらめなければ結果は何とかがついてくるというのが実感です。

これからどれだけ生きることができるのかわかりませんが、「トラブルをチャンスに」の気持ちを忘れずにこれからも過ごしたいと思います。自分が弱ったときにそれを思えるか、自分との闘いでもあります。

NPO 保育福祉子育てフォーラムとは？

武蔵野美術大学の門を出て玉川上水に向かって緩やかな坂を 50 メートルほど登った右側に発達研究所があります。子ども、とりわけ乳幼児の発達について専門的に研究するところです。この研究室に足場を置いてスタートしたのが NPO 保育福祉子育てフォーラム(以下「フォーラム」)です。2019 年に準備して 3 年目になります。

フォーラムでは保育や福祉、そして子どもの育ちに対して研究を重ね、『保育白書』や『保育情報』の学習会や検討会を行っています。また保育現場の問題について対応を一緒に考えています。

フォーラムというのは「公開討論会」とも言います。お互

いの意見を出し合いながら保育や福祉の在り方について検討していきます。また「子育て」ではなく「子育て」としたのは子どもを主体としてその発達を考えるものとして位置付けているともいえます。

西ネットの地域内にある研究所として保育や福祉、子育てについて位置付けていただけたらありがたいです。子どもの育ちや発達について情報が必要な方は声をかけてください。問い合わせ先は以下の通りです。(瀧口)

〒187-0032 小平市小川町 1-741-132-101

042-386-4740

新年度迎えて 5 月の歌

◆年金減 物価上昇コロナ故 「どこにも行くな」でやっとやり繰る

◆今四世 やがて十世二十世 「その時どうなる？在日差別」
(この問い自体は朝大と武蔵野美大の交流の時に学生から出たものです。)

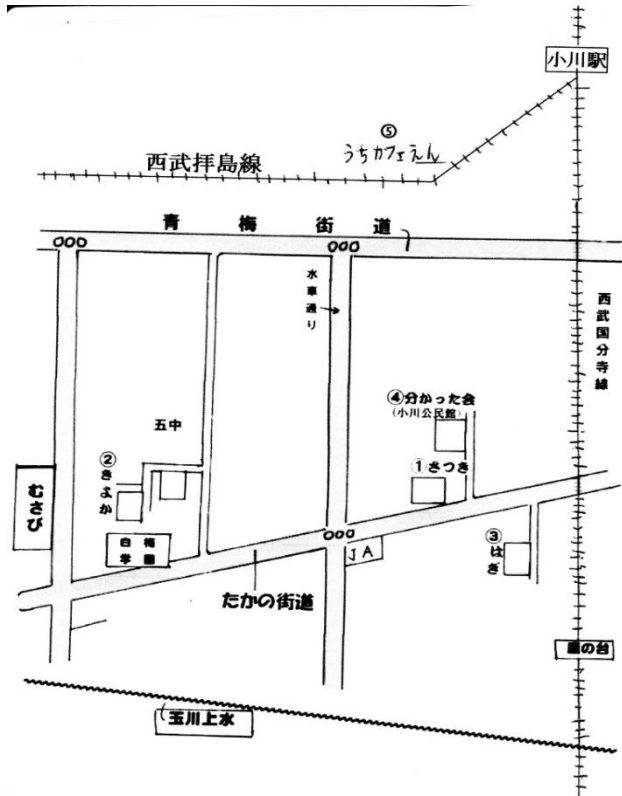
◆生きものは種の保存こそ本命なり 人類だけがはみ出す恐さ

◆この時代戦争すれば類滅ぶ、阻止を叫ぼう新緑を背に <金田利子>

皆さん、コミュニティ・サロン(下の①～⑤)と「中学生勉強会」(④)に足を運んでみませんか?

お待ちしております! (右の地図を参照)

- ① ほっとスペースさつき
毎週火曜と木曜 10:00~16:00 (移転先検討中)
問い合わせ: 渡辺 穂積
TEL: 042-344-7412
- ② ほっとスペースきよか
毎週月曜 11:30~15:30 (移転先検討中)
問い合わせ: 石川 貞子
TEL: 090-7732-2089
- ③ アットホームはぎ
毎月 7, 17, 27 日: 14:00~17:00
問い合わせ: 萩谷 洋子: 042-342-1738
- ④ 「分かった会」小中無料学習教室
毎週木曜日 18:00~20:00 (小川公民館)
問い合わせ: 奈良 勝行 (講師募集中!)
TEL: 090-4435-4306
- ⑤ 子育てサロン「うちかフェェん」(小川町)
毎週月・水 13:00~15:30分
問い合わせ: 伊藤絹代
TEL: 090-5441-6219



イベントの予定

(コロナウィルスの影響でほとんどの計画は未定です)

西ネットの今後の予定

- 地域世話人会: 07月05日(火) 18時~
- 大学世話人会: 07月19日(火) 18時~
- 大学世話人会: 09月06日(火) 18時~
- 地域世話人会: 09月13日(火) 18時~
- 地域懇談会: 09月27日(火) 18時~
- 大学世話人会: 10月11日(火) 18時~

西ネットの世話人

ブロック	地域世話人	大学世話人
1	西 克彦・丸山安三	瀧口 優・杉本豊和 福丸由佳
2	足立隆子・芳井正彦・ 今野志保子	午頭潤子・土川洋子 吉村季織
3	石川貞子・大内智恵子・ 久保田進・穂積健児・ 杉浦博道・吉田徹	金田利子・草野篤子 西方規恵・牧野昂哲
4	桜田 誠・萩谷洋子 細江卓朗・渡辺穂積	井原哲人・森山千賀子
全体		奈良勝行・長谷川俊雄

お願い: この広報紙『小平西のきずな』の編集方針は、「顔の見えるネットワークづくり」を目指して参加団体(者)の活動などを紹介し、文字通り「市民のきずな」を築いていこうとするものです。ニュースの全部または一部を改編することはお断りします。もし使用したい場合は編集担当までお申し出下さい。

投稿募集: このニューズレターは皆さんと一緒に作るものです。活動の報告やイベントの企画などについての原稿をお寄せください (奈良勝行)。

メール: ever.onward.nara@xd5.sonet.ne.jp

編集後記: 「小平西のきずな」も今回で 42 号を迎えます。3ヶ月に1号の発行なので、この4月から11年目に入りました。もちろんここに載せられなかったものも沢山あるので、それらを含めてもっと地域の顔が繋がっていくことを期待しています (瀧口)。